

各部の説明

線を引っぱる、
送りのローラー
の圧力調整。

刃の圧力調整。

電線の通り穴

メイン
スイッチ

モーター

サイド・ベルトカバー

(線が詰まった場合、すぐOFFにし、
逆回転させて、取り除いて下さい。)

逆回転



OFF

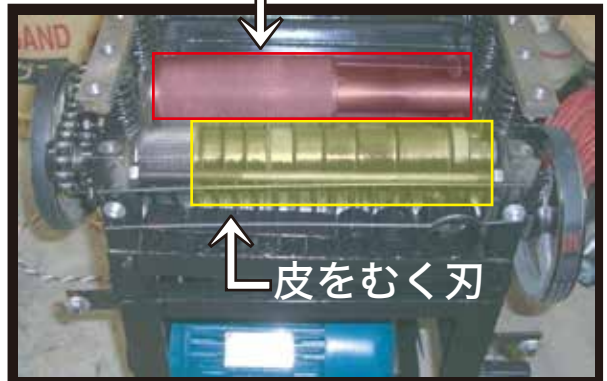
正回転
(通常運転時)

(三相 200V の場合、
逆になることがあります。)

メインスイッチ
の拡大図

内部の説明

線を引っ張る
ローラー



皮をむく刃

絶対に注意すること

- ・ 内部、外部含めて、掃除をする時は、電源コードを抜いてから行うこと。
- ・ 何らかの理由でベルトカバーを外す時は、必ず電源コードを抜いてから外すこと。
誤ってベルトに指を挟むと、指が切れます。
試し運転する時もカバーは付けること。
- ・ 電線は長さ 1m ぐらいにカットして入れること。
長いと、線が足に絡まり、足が持っていられる
恐れがありますので、危険です！

その他注意事項

- ・ 軍手をする事。
- ・ 刃を長持ちさせるために、
電線のみを入れて下さい。
(プラグや圧着端子が付いたまま入れると刃が
すぐ切れなくなります。)
- ・ 電線の直径にあった穴に入れること。



注
意
!

悪い例・両手は軍手していません。
・ 線が足に絡まっています。

- ①電源コードを差し、メインスイッチを正回転に合わせます。
1 m以下にカットした電線を用意します。
- ②初めは、電線の太さより二回りぐらい、大きい穴に通して下さい。



悪い例

刃が深すぎる



刃が浅すぎる



良い例



- ③きれいに剥けていていれば OK ですが、切れていない場合、1 つ径の小さい穴に通して下さい、径の小さい穴ほど、深く刃が入ります。
(逆に刃が深すぎる場合、1 つ大きい径の穴に通して下さい。)

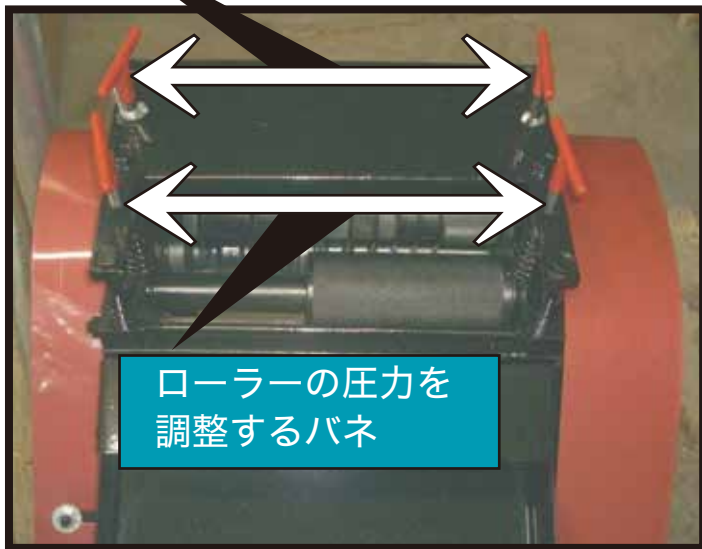
さらに、線の種類によって、微調整の方法については、次のページで説明します。

刃が深すぎる場合、浅すぎる場合

- ・もし、皮だけでなく、銅線も切れている場合、
下記を参考に調整して下さい。（逆に刃が浅い場合は逆手順です。）

刃の圧力調整のネジを緩めると
バネが緩み、皮だけをむきます。

図① 後ろからの見た図

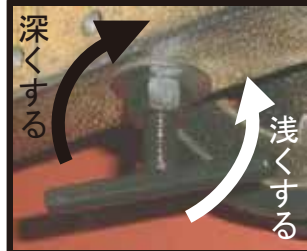
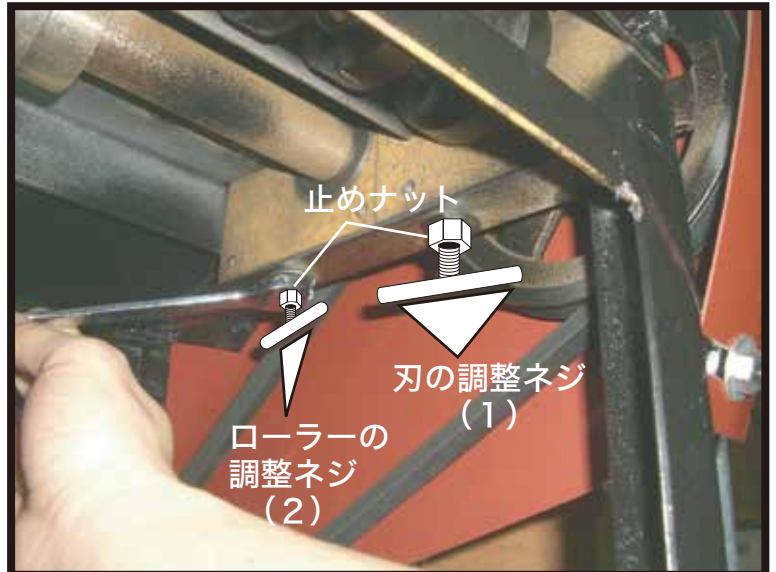


電線を入れても、
線が出てこない（中で詰まる）場合、
以下の原因が考えられます。

それでも駄目な場合

機械下部の刃の深さ調整ネジ（１）を調整する。

図② 下からの図



刃の位置を見ながら、
調整して下さい。

- ①両サイド、バネの圧力（送りのローラー図①を参照）
が強すぎるので → 図①を参照して、ローラー調整のバネを緩めて下さい。
（ゆるすぎてもスリップして、入っていきません。調度良い圧力が必要です。）
それでもだめな場合、上記図②の（２）ローラーの調整ネジを調整して下さい。
- ②上記図②の（２）ローラーの調整ネジを参照して、
機械下部の送りローラーを調整して下さい。
- ③各ベルトが緩んでいないか、カバーを外し、点検して下さい。
（カバーを外す時は電線コードを抜くこと。）
- ④電源の表面に油が付いている、または、機械の吸い込み口に油が付いていると
滑って出て来ません。（油を拭く、掃除をすることが必要ですが、
必ず機械の電源コードを抜いてから、行うこと。）

その他

- ・刃を新しく換えた場合、切れすぎるので、上記の写真を参照して、
調整が必要な場合があります。
- ・電線の皮が厚すぎる場合、線が出てこない場合があります。